

【活動報告】

あすなる会 SDG'sプロジェクト

『地域のお花・野菜いきいき運動』



～生ごみ処理機活用によるたい肥の配布運動～

社会福祉法人あすなる会は地域福祉の更なる向上に寄与すべく社会福祉事業(保育・児童・介護・障がい等)・公益事業・地域貢献等の活動を実践するとともに、SDG'sの目標達成に向けて『17の目標』を基本姿勢とし、【2・飢餓をゼロに】【3・すべての人に健康と福祉を】【4・質の高い教育をみんなに】【5・ジェンダー平等を実現しよう】【7・エネルギーをみんなにそしてクリーンに】【8・働きがいも経済成長も】【12・持続可能な消費と生産】【14・海の豊かさを守ろう】【15・陸の豊かさを守ろう】を重点目標として取り組むことで、『17の目標』に貢献します！



この度は、あすなる会 SDG's プロジェクトとして、生ごみ処理機を活用して作った推肥を地域へ配布する「地域のお花・野菜いきいき運動」について、活動を報告させていただきます。今後とも、さまざまな形で社会貢献・地域貢献活動を実施したいと考えております。

趣旨

令和3年10月、中央競馬馬主社会福祉財団の助成を受けて、当法人のあすなる第2保育園敷地内に「業務用バイオ分解式生ごみ処理機」を設置しました。「保育園の厨房から生ごみゼロ作戦」を開始して、調理の過程で出る野菜くずや果物の皮、食べ物の残りなどを処理機に投入して有機肥料化し、園児のご家庭や地域の皆様(近隣住民・高松フラワーフレンド・あすなる会高齢者施設のご利用者様等)に無料配布したり、法人の畑やプランターなどにも利用しています。少しずつ肥料化するため、一度に限られた量しか配布できませんが、定期的・継続的に本運動を行うことで、地域の皆様にお役に立てればと考えております。

また今回の活動は、自然を大切にするリサイクルや、地域環境を守るための園児や職員への環境教育などを目的に実施しており、コロナ禍の中でも、人びとの心や地域に多くの笑顔が生まれ、生き生きとした地域となることを願ってこれからも活動していきたいと思っております。





園でできた堆肥を土に混ぜる園児たち。28日、出雲市白枝町のあすなろ第2保育園

非通算で6期2年11ヶ月の間、松江市長を務めた。叙勲は「非常にうれしく思っている」と話す。少子高齢化や人口減少、経済が停滞する中、地方自治の振興、とりわけ「松江らしさ」「松江の特性」を生かした施策を推進した。「松江らしさ」については初就任から退任までの約21年間、一貫して追い求めていたという。

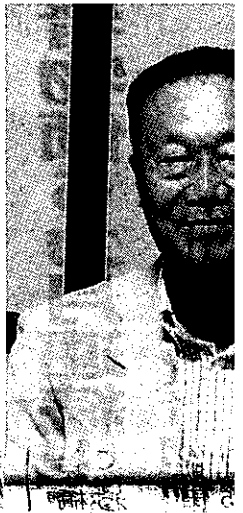
松浦正敬さん (74) =松江市長



「苦労もあったが、達成感もあった」とし、「自分ひとりでやれたわけではない。いろんな人に支えられた。みなさんのおかげ」と振り返る。

旧赤来町長一期を経て、2005年から町村合併で誕生した飯南町長を4期、16年間務めた。人口減少・高齢化が進むなか、飯南町では「小さな田舎(まち)からの生命地域宣言」を基本理念に掲げ、恵まれた自然、歴史文化を生かして、産業振興や定住などの施策を推進し、町の発展に尽力した。

山崎英樹さん (70) =飯南町小田



脱することができたという。化も早期に実現。医療職の確保など飯南病院の充実に中・高校の教育充実などにも尽力した。25年間、町長職にあつては「生活者の視線でまちづくりや施策立案にあたる」を一番に心掛けてきたと振り返る。「務めてこられたのは皆さんのおかげ」。また、中学生までの医療費無料化、保育料の無料

- 山根正巳(70)元岡山東税務署長 広島県豊岡市(71)元公立高等学校長 山口県立高等専門学校 山根正巳(71)元岡山東税務署長 広島県豊岡市(71)元公立高等学校長 山口県立高等専門学校 山根正巳(71)元岡山東税務署長 広島県豊岡市(71)元公立高等学校長 山口県立高等専門学校...

SDGsで生ごみを堆肥へ

出雲・あすなろ会が取り組み

社会福祉法人あすなろ会(出雲市白枝町、竹内一夫理事長)が、生ごみ処理機を活用して作った堆肥を地域へ配布する活動「地域のお花・野菜いきいき運動」を始めた。国連が提唱する「SDGs」(持続可能な開発目標)への取り組みの一環として、地域貢献を目指す。

切にするリサイクルや、地球環境を守るための園児や職員への環境教育などを目的に実施し、地域への堆肥の無料配布により地域貢献にも役立てている。設置した処理機は環境に配慮したバイオ分解式で、上限10kgの生ごみを投入後、24時間分解・減量を行う。

28日は、同園の園児41人がこの堆肥を活用してプランターに花の苗を植えた。あらかじめ、竹内寛和園長(48)から、どのような堆肥が作られたかについて説明を聞いた園児たちは、プランターの上に堆肥を混ぜ込んだあと、マリーゴールドやペチュニアなどの苗を丁寧に植えていった。

昨年10月、中央競馬馬主社会福祉財団の助成を受けて、同法人のあすなろ第2保育園敷地内に生ごみ処理機を設置。「保育園の厨房(ちゅうぼう)から生ごみゼロ作戦」を開始して、調理の過程で出る野菜くずや果物の皮、食べ物の残りなどを処理機に投入して堆肥化し、地域や園児の

保護者に無料配布したり、園の畑やプランターなどで利用している。同法人では、SDGsが提唱される以前から実践的な取り組みを行ってきた。今回の活動は、コロナ禍の中でも、人びとの心や地域に多くの笑顔が生まれ、生き生きとした地域となることを願って推進。また、自然を大

使っている。これまで市の処分場で処分していた園児の生ごみのおよそ半量にあたる10kgが、毎日堆肥化されている。28日は、同園の園児41人がこの堆肥を活用してプランターに花の苗を植えた。あらかじめ、竹内寛和園長(48)から、どのような堆肥が作られたかについて説明を聞いた園児たちは、プランターの上に堆肥を混ぜ込んだあと、マリーゴールドやペチュニアなどの苗を丁寧に植えていった。

島根日日新聞に掲載された写真を有料にてお分けしています。印刷のみ。写真内容・使用目的によっては提供できない場合もあります。モノクロで載ってもカラーで提供!! 本社・支局まで直接取りに来て頂くか、郵送(送料別途)にてお渡しいたします。島根日日新聞社写真サービス係 電話0853-23-6760(代)

開館30周年記念 不味が育んだ美 出雲 令和4年5月8日(日)まで 開館時間/9時~17時(入館は16時30分) 休館日/月曜日(5月2日は開館) 観覧料/一般800円(高校生以下は無料) 出雲文化伝承館